

良識ある保守主義・情報公開

# 吉田つとむ

町田市議会 無所属会派所属議員

<編集発行>

〒194-0011 町田市  
成瀬が丘 1-14-12  
サンホワイト E103-13  
自宅 042-795-7361(fax 兼用)  
市議会議員 吉田つとむ  
yoshidaben@gmail.com



## 下瀬美術館と町田市立工芸美術館の対比

下瀬美術館は2018(平成30)年、地場の全国大手建設資材メーカーの丸井産業株式会社の創業60周年を機に構想され、広島県大竹市内に2023(令和5)年3月開館しました。代表取締役である下瀬ゆみ子氏が先代の創業者夫妻から受け継ぎながら形成してきたコレクションを保存、公開する施設です。設計は、建築家の坂茂氏で、この下瀬美術館は、ユネスコが毎年開催する2024年建築賞で、「Museums」(美術館・博物館)のカテゴリートップの「ベルサイユ賞」を受賞し、「世界で最も美しい美術館」に選ばれる快挙を成し遂げています。



この美術館の公共的な意義に関して、場所が長期間放置されていた瀬戸内海の海岸埋立地に建設されたこと、建築、収蔵、運営が全て民営(民間企業と個人が提供した資産と人員)とされていることです。そのため、館内のカフェだけでなく、屋外に庭園、ホテル(ヴィラ)、レストランも設置し、運営し利益の確保を求めるとともに、観光的な資源を大竹市に提供していることです。

他方で、町田市が建設しようとする国際工芸美術館は傾斜地の樹木を伐採し、建設費は全て税金を使い、さらに運営も市税を投入しようと言うものです。収蔵作品のレベルでも下瀬美術館の方がはるかに上位でしょう。

## 大竹市の公共交通政策と東京都の高齢者超格安バスの対比

広島県大竹市は県南西部にあり、空港や新幹線駅は隣接する山口県岩国市内にあります。面積は78.66 km<sup>2</sup>で町田市より若干狭く、人口は25,369人です。大半が山間地となっており、人口の大半は狭い海岸線の平野部や大地に集中し、他は市域の端部を一本の線のような集落があるのみです。また、海岸線側には三菱や三井の化学コンビナートがあり、外部からの通勤者の割合が多いのも特徴になっています。

JR山陽本線が通り、市の南西・北東に2駅がありますが、市内の主要交通機関はコミュニティーバスの「こいこいバス」がショッピングモールを拠点に上記の駅や市庁舎などの主要地を循環式に巡って市民交通が確保されています。試乗しましたが、利用者も安定しているようでした。台地上の住宅地には、デマンド型乗合タクシーが稼働していますが、「こいこいバス」の停留所での乗り換えが基本とされており、改善の余地がありそうです。

また、市の周辺部過疎地の交通は定期路線バスですが、便数が一日数本に限られており、生活路線としての維持は図られていないようでした。市民の足としての交通路線を確保する改善策が絶えず検討されていました。

他方、東京都では高齢者のシルバーバスの大幅値下げ(年間20510円を12000円)が予定されますが、果たして、都営交通や一般路線バス区間を使わない人や、一般の世代に理解をされるものか、大いに疑問があり、批判的な見地を表明致します。



○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

若い世代の育成に全力をささげる  
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

# 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは  
左記を読込  
して送信



好評インターンシップは、第  
55期生が参加研修中

## インターン体験記②-1 森田瑛斗

本日は町田市の医療の中核を担う町田市民病院を訪問し、服部事務部長からお話を伺った後、病院内を見学させていただきました。



東京大学医学部6年生 森田瑛斗(第55期)

町田市民病院の大きな強みとしては周産期母子医療センターとして新生児集中治療管理室(NICU)を備え、ハイリスク妊娠に対する高度な医療を提供できている点が挙げられます。出産年齢の高齢化に伴い、リスクの高い出産も増えていることから、周産期母子医療センターの需要は高まっていると考えられますが、都内における分布に大きな差があるという現状を伺いました。特に区中央部ブロック(千代田・中央・港・文京・台東)では計65床あるのに対し、多摩ブロックでは計63床となっており、多摩地域の人口が区中央部ブロックの四倍あることを考慮すると大きな差があると言えます(東京都保健医療局ホームページ参照)。文京区、港区エリアに大学病院が集中しているというのが大きな要因と考えられますが、区中央部が多いというよりも、多摩地域に足りていないという見の方が適切なのかもしれません。

また、手術室にはダメージの少ない手術を可能にする内視鏡手術支援ロボットのda Vinciも導入されており、対象となる疾患も増えているとのことでした。ロボット手術は術後の回復も早く、精密な作業が可能なることから患者さんにとって非常に魅力的な選択肢になると感じます。一方で若手の外科医にとってはロボット以外で手術をする機会が少なくなることから、従来の外科技術を養うための経験を得るのが難しくなっていくのではないかとということも憂慮されます。

## インターン体験記②-2 森田瑛斗

各病棟を回り、ベット数や導入設備の機種を伺う

服部事務部長に様々なお話を伺う中で様々な医療の課題を認識することが出来ました。はじめに急性期病院での経営の難しさについてお話していただきました。救急医療、周産期医療、小児医療はコストがかかる一方、決して打ち切ることのできない領域でもあります。そのためこのような領域を担当する急性期病院では赤字を出さないことはほぼ不可能に近く、行政が補填するというのは避けられないことなのだと感じます。

また、医療機器は海外企業のものが多く、円安や原材料高騰の影響による材料費の増加も大きく影響していると伺いました。国内企業の競争力を高めていく必要があると思いますが、日本では国が診療報酬を決めるために企業にとっては利益を回収しやすい市場であるとは言えません。国内企業が開発研究に資金を投じ続けることの出来るような環境を作っていくことが今後の医療コストを抑える上で欠かせないと考えます。

医療にかかるコストは増える一方、それを負担する人口は減ってきてしまっており、この流れは止まりそうもありません。どのように生まれ、どのように死んでいくのが幸福なのか、現実と理想を擦り合わせながら考えなくてはならないと感じます。



回復期リハビリテーション病棟を訪れる

東京大学医学部6年生 森田瑛斗(第55期)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年2月末までに111名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎次回のインターンシップは、2025年夏季募集で2025年3月より広報開始します。